

学校教育目標

- ・自ら学び考える生徒
- ・心豊かでたくましい生徒
- ・礼儀正しい生徒
- ・働くことに喜びをもつ生徒

宣言文

本校は「地域の香りを大切にし 地域とともにある学校づくり」を推進します

木守りの心

我が家の実家には父の植えた柿木が一本ある。柿を収穫するとき母が、「必ず1つは残しておいてね。人間だけ食べるのではない、小鳥たちにも残しておいてね、そうしないと来年はならないよ」と言っていた。父の思いと母の教えを守り、今年の実家の柿の木にも大きな実が1つ、落葉し寒々としたこずえに小鳥たちの飛来を待っている。最近は良くメジロやヒヨドリがやってくる。



確かなことはわからないが、1つだけ残っている柿を「木守り」と言うそうだ。これは来年もよく実が実るようにと言うまじないだが、木の実を人間と小鳥たちと分け合う共存の習慣化されたもので、昔の人達も心の広さ、ゆとりの素晴らしさに感心させられる。

文部科学省が掲げる学習指導要領では基本方針に「豊かな人間の育成」を掲げ、豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を図ることを重視している。豊かな心では特に「真理を求める心」、「自然を愛し、美しいものや崇高なものに感動する心」、「生命を尊重する心」、「他人を思いやる心」、「感謝の心」、「公共のために尽くす心」を求めている。

このような心の教育の重視は、1つには現在社会への「エゴむき出しの、自己主張ばかり」の世相の反映であり、学校教育だけではどうにもならない。家庭や地域との連携はもちろん、地域ぐるみの取り組みが求められている。先日、地域の体育祭に生徒たちがボランティアとして参加した。また、みこし祭りの見守りとしても参加した。今週、生徒会選挙が行われているが、その公約としても地域活動への参加を呼び掛けているものが多い。1年生の地域学習でも、カドカワの学芸員さんから武蔵野の説明を受けた。このように、本校でも地域の力を借りた教育を進めている。

小さな地域ぐるみの活動の積み上げが、生徒の心を耕し育てることになる。「木の実を人間だけが独占しないで、小鳥たちのために残す心」、こずえにただ1つだけ残っている柿を見て、思いがふくらむような安松中学校の生徒を育てたい。

感動の第42回合唱祭



10月21日(月)に所沢市民文化センターミュージズにおいて、合唱祭が開催されました。3年生の学年合唱や有志合唱は他を圧倒するものがあり、聞いている人たちを感動させるものでした。そして何よりも感動したのは、この合唱祭に向けての取り組みの様子です。昼休み3年生の生徒たちが自主的に練習を開始、その様子を見て、下級生の雰囲気も高まっていきました。各クラスが全力で合唱の完成に取り組み、最後には涙していた様子は感動的なものでした。この取り組みが、三送会そしてフィナーレ卒業式への潮流を作り出していくことは間違いありません。

金賞 1年4組 2年3組 3年1組 銀賞 1年3組 2年4組 3年2組

駅伝

10月15日(火)埼玉県中学校駅伝大会所沢市予選会が開催されました。本校からも男女2チームが参加しました。その練習の中で、体育科の先生をはじめ、多くの先生たちが、練習する生徒たちと一緒に練習で走り、生徒たちを鼓舞し続けていました。中には練習を皆勤した先生もいました。選手も頑張りましたが、サポートメンバーとして頑張った下級生の存在も大きかったと思います。お疲れ様でした。



11月の主な行事予定

(予定が変更になる場合がございます)

1日(金)	1年生地域巡り	16日(土)	学校公開 授業参観
6日(水)	生徒会本部役員選挙	18日(月)	振替休業
8日(金)	命の授業	25日(水)	期末テスト
13日(水)	親善音楽会(3-1)	26日(木)	期末テスト

学校ホームページから
日頃の様子を発信しています。



